

平成 23 年度第 8 回 税制調査会後の記者会見録

日 時：平成 23 年 9 月 7 日（水）18 時 59 分～

場 所：財務省 3 階 記者会見室

○五十嵐財務副大臣

今日はフルオープンでしたので、私の方から特に申し上げることはありません。

○記者

今日の議論を見ていますと、復興増税に関して将来世代に負担を先送りしないという、今まで政府で決定してきた基本的な方針のところ、一部の新しいメンバーから、短期でやると経済の足を引っ張るとか、建設国債でもいいという党の議論もあったというような反論も出ていたり、最初から基本的な認識のところギャップがあらわになったところがあったかと思うのですが、その辺、五十嵐副大臣はどのように受け止めていますか。

○五十嵐財務副大臣

党の中にいろいろな意見があるということは知っています。今日の段階で確認をしたということは、それはそれでいいと思います。党の意見は党でまた、先ほど櫻井さんがおっしゃったように、政府と与党との間で議論をすることになるわけですから、党の議論は党の方でまとめるということだと思います。私どもは、与えられたミッションに忠実に従うということであれば、ちゃぶ台が返ってしまうことになりましたので、これは求めに応じて回答をしたいと思っております。

○記者

新しいメンバーからの質問にも関連しますが、税外収入や歳出削減で、今後上積みできる分についても同時並行で議論していくということかと思いますが、実際いつぐらいを目途にその辺りを出してくるのか、増税のパターンを示す時期との兼ね合いについて教えていただけますか。

○五十嵐財務副大臣

党の方は、それなりにいいところに来ていると認識しております。3兆円目標のかなりのところまで来ているが、まだなお詰めるべきところがある。そして、それとは別に、安住財務大臣の指示で、財務省事務局としてもいろいろな角度から財源を上積みすべく努力していると伺っているので、それなりに出てくるのではないかと考えております。しかし、まだその幅については確定しておりませんので、作業と並行しながらお互いに情報をやり取りし、進めていくことになると思います。

○記者

作業チームの方で複数案を示す際には、税外収入の部分も反映した案が出てくるということでしょうか。

○五十嵐財務副大臣

当然そうだと思います。

○記者

そうすると、今後のスケジュールで、安住大臣は来週中にも複数案を提示したいという話を会見でしていたが、実際に今後の具体的なスケジュールが決まっているのでしょうか。

○五十嵐財務副大臣

現時点では、具体的にいつというのは決まっておりません。ただ、なるべく急ぐということで、大臣から指示があれば、なるべく満たすように努力はいたします。ただ、来週中に終わるということは、確約はできない状況だと思います。

○記者

作業チームで複数案を提示した後の段取りで、複数案をまず税調の全体会合に示すと同時に、復興対策本部の方にも示すという話を以前されていたかと思うのですが、これは違うのですか。

○五十嵐財務副大臣

本体会合で複数案を出そうと、こういう答申にしようということを決めてから復興会議に報告する。復興会議の方で、大所高所から判断してもらい、その上で与党内の調整をする。そして、その上で野党側との協議に入るという順序だと思います。

○記者

野党側との協議に入る段階では、既にその複数案は一本化されているということでしょうか。

○五十嵐財務副大臣

当然、そうだと思います。

○記者

党の方にも税制調査会が新設されましたが、政府税調との関係はどういう関係で、今後どう議論していくのでしょうか。

○五十嵐財務副大臣

それは党の執行部の高度の判断になるのだと思います。私どもは、かつての自民党税調と政府税調との在り方の反省から、答弁をする大臣、政治家が決定する形にしようということで、政府税調を諮問機関的なものから決定機関に変えました。そのことは変わっておりません。かつての自民党の2つの税調の間関係とは、これからできる党税調とも違うと思っていますので、新たな関係をつくらなければいけません。その関係がどういう形になるのかは、もう少し執行部の決定を見ないとと言えないと思います。

○記者

スケジュールの話ですが、作業チームの第1回はいつ開催しますか。また、それを受けての税調は、次回はいつになりますか。

○五十嵐財務副大臣

両方ともこれからです。まだスケジューリングの調整もできておりません。今、ここに揃っている4人が作業チームのメンバーの一部であり、この他にも内閣府から来るわけですが、

スケジュールも調整が全く進んでおりませんので、現時点ではいつと申し上げられません。

○記者

作業チームのメンバーは、皆さん4人と、あとは誰になりますか。

○五十嵐財務副大臣

内閣府から出てくるということになります。今までで言いますと、内閣府の副大臣と政務官がおられましたので。

○記者

誰かは決定していないのですか。

○五十嵐財務副大臣

まだ聞いておりません。

(閉会)